



岡山県立和気閑谷高等学校

研究開発構想名：「恕」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成



育む7つのチカラ

自分を理解する力 職業とつなぐ力 考える力 行動する力 コミュニケーション力 チームワーク力 自立する力

今できていること

- 探究学習「閑谷学」の枠組
- 主体的な学びの実現に向けたパフォーマンス課題とルーブリック評価に着手
- 地域と協働する基礎的システムの構築
- 地元自治体による地域連携コーディネーターの配置

これからチャレンジしたいこと

- 探究学習の専門性・新規性のレベルアップ
- 長期ルーブリックの策定と教科横断的な学びの実現
- 地元企業や自治体と連携した長期実習やデュアルシステムの実現による明確な職業観の形成と地域を支える人材の育成
- コンソーシアムを核としたコミュニティ・スクール化による取組の継続性の確保

年次計画

2019
各教科等の長期ルーブリック策定とカリキュラム開発

2020
デュアルシステムカリキュラムの実践と検証

2021
各教科等の探究型カリキュラムの成果普及

主なKPI

- 長期ルーブリックに基づく習得状況
- 各教科等の探究的な単元のHP掲載本数
- 就業体験実習の受入を希望する地域の事業所数 等

各教科・科目

- 長期ルーブリックの策定
 - 身につけるべき資質・能力と評価規準を共有化
- パフォーマンス課題の開発
 - 各教科における探究的な単元・課題の開発
 - 教科横断的な課題の研究
- デュアルシステムカリキュラムの開発
 - 学校設定教科「地域協働探究」新設
 - 学校外における学修の充実

大学教員などから指導を受けられる体制を構築

実社会での学びを重視

課題解決型探究学習「閑谷学」（総合的な探究の時間）

- 3年生（1単位）
卒業探究（個人）
- 2年生（2単位）
テーマ別探究活動
- 1年生（1単位）
探究基礎トレーニング

- 進路分野の理想と現状を埋める
分野別探究 → 卒業論文完成 → 発表会
- 世界と自分のつながりを感じる
SDGsの視点から和気町の課題解決を提案 → 提案を実践してみることでPDCAを確立 → 発表会
- 学校や地域と自分のつながりを感じる
探究学習に必要な技法を学ぶ → 和気高、和気町をテーマに学習 → フィールドワーク → 発表会

学びを体現する場としての役割

課外活動

- ◆多様な主体による協働会議
- ◆放課後学習支援 ◆イングリッシュキャンプ
- ◆こくさいフォーラム in Wake
- ◆旧閑谷学校ボランティアガイド
- ◆学童保育ボランティア
- ◆論語・英語出前授業 ◆姉妹校交流 等

タブレット一人1台（Society5.0に対応できるICTスキル）、多様な評価方法（ルーブリック、ポートフォリオ、MSC）

県内先進実践校との連携・協力体制を構築（成果抽出・県内外への発信等）

町長・町教育長を学校運営協議会委員としたコミュニティ・スクールに移行予定

各部会を置き、実効性のある運営体制を構築

魅力化推進協議会（コンソーシアム）

岡山県教委

旧閑谷学校

和気町・教委

和気商工会

同窓会

赤磐市・教委

赤磐商工会

PTA

備前市・教委

備前商工会議所

和気金融協議会

備前東商工会

県内大学

NPO 和気サンシュユの会

和気閑谷高校

校内体制

地域協働プロジェクト推進委員会を校務分掌化

小中高接続部会

- 小中高生の協同実践のカリキュラム開発
- 「教育のまち“和気”」構想との連携

産学官連携部会

- 地域振興の担い手育成に向けた実践
- デュアルシステムカリキュラム開発

高大接続部会

- 本校教育の質の向上への提言
- 発展的な探究学習のカリキュラム開発

- 県外の大学・商工会議所・商工会
- 和気駅前商店会
- 岡山ESD推進協議会
- ASPnet（海外の姉妹校を含む）
- ASPUnivNet
- 地域・教育魅力化プラットフォーム
- 地域みらい留学推進協議会

連携

ふりがな	おかやまけんきょういくいいんかい	ふりがな	おかやまけんりつわけしづたにこうとうがっこう
管理機関名	岡山県教育委員会	学校名	岡山県立和気閑谷高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：岡山県教育委員会

代表者名：教育長 鍵本 芳明

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：岡山県立和気閑谷高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：香山 真一

2 取組内容

和気閑谷高等学校がある和気町とその近郊の市町の魅力や課題を知り、将来地域を支える人材の育成を目指すためのカリキュラム開発の研究を実施する。具体的には、地域を支える人材として必要とされる学校が掲げた「7つのチカラ」を育成するため、各教科・科目における長期ルーブリックを作成するとともに、教科横断的なパフォーマンス課題を設定し、多面的多角的な探究活動を実施する。また、テーマ別にグループで和気町の課題解決に向けた探究活動を実施している現行の閑谷學（総合的な学習の時間）の専門性や新規性を高めるために、大学関係者や自治体、企業からの指導体制の構築を行う。さらには、職業観の育成や専門的な知識・技能を習得するとともに、地元企業等の魅力や課題について体感することができる学校設定教科「地域協働探究」（仮称）を開設し、地元関係者による社会人講話や地元企業等への就業体験実習等を実施する。その際に、教科横断的な取組となるようカリキュラム開発を行う。

コンソーシアムとしては、開発したカリキュラムに対して、それぞれの専門的な分野から今後の方向性を協議するとともに、各機関の職員を社会人講師として高等学校へ派遣したり、就業体験において生徒の受入等を行ったりして、教育活動の支援を実施する。また、小学校や中学校での出前講座や放課後学習支援等の調整を行うなど、学校の研究開発の研究・改善を支援する。

管理機関である県教育委員会としては、上記の先進的な取組を強化するとともに、県内外の高等学校への普及を図るため、現在、地域と協働した先進的な取組を実施している県内の複数の高等学校と和気閑谷高等学校とで、連絡協議会を立ち上げ、先進校同士で成果や課題を共有したり、フォーラムを開催したりする。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
和気町	町長・草加 信義
和気町教育委員会	教育長・徳永 昭伸
和気商工会	会長・川上 健二
和気金融協議会	会長・丸児 務（中国銀行和気支店長）
赤磐市	市長・友實 武則
赤磐市教育委員会	教育長・内田 恵子
赤磐商工会	会長・金谷 征正
備前市	市長・田原 隆雄
備前市教育委員会	教育長・奥田 泰彦
備前商工会議所	会頭・寺尾 俊郎
備前東商工会	会長・横山 忠彦
NPO 法人 和気サンシュユの会	理事長・定國 誠也

特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会	理事長・國友 道一
岡山大学	教師教育開発センター長・三村 由香里
和気閑谷高等学校	校長・香山 真一
和気閑谷高等学校PTA	会長・大智 りえ
和気閑谷高等学校同窓会	会長・内山 登
岡山県教育委員会	教育長・鍵本 芳明

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

地元和気町からの支援職員を地域協働学習実施支援員として和気閑谷高等学校に配置していることや、コンソーシアムに地域の自治体及び教育委員会、地元商工会、PTA、同窓会等を含めることで、地域が考えるビジョンや人材について学校と地域が共有し、同じ方向性で教育活動の充実を図ることができる。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

地元自治体である和気町に、和気閑谷高等学校の生徒の約半数が住む近隣の赤磐市・備前市の自治体や大学、商工会議所、NPO等を加え、従来の「魅力化推進協議会」を発展・拡充した新たなコンソーシアムを構築し、その下にワーキング・グループとして、「小中高接続部会」、「産学官連携部会」、「高大接続部会」を設置し、実効性のある会議を運営することで、地域と協働した教育活動の展開を目指す。

(4) カリキュラム開発等専門家の指定及び配置計画

カリキュラム開発専門家を2名、非常勤職員として指名する。和気閑谷高等学校地域協働プロジェクト推進委員会コアメンバーとして、カリキュラムの編成を担う企画主任や3部会主担当者へのアドバイスやカリキュラム開発に係る教職員及び支援職員（地域協働学習実施支援員）への指導・助言等を行い、本研究開発終了後も自走できるようなカリキュラムを開発する。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

和気閑谷高等学校と和気町との協定に基づいて和気町から派遣されている支援職員1名（平成31年度）を指定し、閑谷學（総合的な探究の時間）や教科横断的な学びのコーディネーターとして、地域と連携する探究学習のプログラムの企画・立案や生徒への指導等を行うとともに、生徒の学びの場として様々な課外活動を企画・運営する。また、地域と連携した探究学習の手法等、教職員への研修等を実施する。

(6) 運営指導委員会の体制

地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた研究を中心とした教育課程の研究開発を行うため、大学関係者、産業界関係者、報道関係者、自治体関係者等を運営指導委員のメンバーとし、幅広い視点から専門的な指導・助言を受けられるような体制を築く。

【構成メンバー】

氏名	属性／所属	役割
前田 芳男	大学関係者／ 岡山大学地域総合研究センター教授（副センター長）	地域との協働による教育活動の手法に関する指導
神崎 浩二	産業界関係者／ 岡山県経済団体連絡協議会 事務局長	産業界が高等学校に求める教育の在り方に関する知見
岡山 一郎	報道関係者／ 山陽新聞社編集局 編集委員室長	地域課題等に関する知見

足立 大樹	教育関係者／ ベネッセコーポレーション 学校カンパニー 西日本教育支 援推進部 中四国支社長	全国における地域との協働による 教育活動や教科横断的な学習 の手法に関する知見
石原 達也	NPO 関係者／ 岡山 NPO センター 代表理事	地域における社会貢献活動の手 法の知見
中村 賢三	自治体関係者／ 岡山県総合政策局地方創生推進 室長	地方創生に関する県行政からの 知見

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

和気閑谷高等学校は、各教科・科目ごとの実践の成果を、学校ホームページで公開したり、毎年実施している卒業探究発表会や探究活動発表会を広く公開したりすることとしている。また、学力向上に資する研究協議会を年1回開催し、各教科・科目等において自主的・自立的に課題解決に向かう態度や地域社会に貢献する態度の育成に資する取組について、県内外で広く共有できるようにする。

管理機関は、有識者から構成される運営指導委員会を年2回開催し、運営指導委員の提言や評価を踏まえ、研究計画の検討、研究の実施過程について検証を行う。また、指導主事等が、教育課程の作成や改善、探究的な学びにおける授業改善についての状況を把握し、適切な指導・助言を積極的に行う。

研究成果については、和気閑谷高等学校をはじめとした、地域と協働した教育活動を実施している複数の先進実践校の取組を県内外の高等学校等に報告する場を用意する。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

(ア) 管理機関による予算支援

和気閑谷高等学校を含めた1学年が3クラスの小規模校は、所属する教職員数も少なくなるなど、さまざまな教育活動に停滞が生じる可能性が出てくる。そこで、管理機関である県教育委員会は、学校長の裁量権を拡充し、学校の教育目標を達成できるように弾力的な予算の仕組みとして実施する「学校経営予算」において、通常、在籍生徒数に応じて決定される配分額の下限を1学年4クラス規模とし、小規模校における教育活動の一定水準の維持に努めている。

(イ) 管理機関による人的支援

和気閑谷高等学校を本県の地域と協働した探究的な学びを実践する先進校として位置付け、地域を含めた岡山の創生のために貢献できる人材の育成を図るため、専門性を考慮した教員の配置を行う等の人的支援を行っている。

(ウ) 地域協働先進校の連絡協議会の実施

和気閑谷高等学校に加え、複数の地域と協働した教育活動を実施している先進実践校と、県教育委員会が連絡協議会を立ち上げ、連携・協力体制を構築する。このことで、和気閑谷高等学校をはじめとする先進的な高等学校の取組の成果を、フォーラムの開催等を通じて県内外の高等学校等へ普及するとともに、先進実践校同士で成果や課題を共有し、地域と協働した教育活動のさらなる充実を図る。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

(ア) コミュニティ・スクールの導入

岡山県立学校にコミュニティ・スクールを導入できるよう、平成31年度前半に規則改正を行い、平成31年度中に導入することとしており、最初に和気閑谷高等学校の魅力化推進協議会（コンソーシアム）を学校運営協議会に移行することで、首長および教育長を委員とするコミュニティ・スクールとし、高等学校の取組支援体制の継続を図るとともに本県のモデルとする。

(イ) 地域学校協働学習支援員の継続

和気町との協定により和気町から派遣された支援職員を地域協働学習実施支援員に指名しており、事業終了後も引き続き地域協働学習実施支援員として高等学校へ配置することが可能であることから、学校による地域と協働した探究的な学びを継続することができる。

(ウ) 高等学校による成果の普及

和気閑谷高等学校が本事業で実施した先進的な取組を、他の高等学校教員等に周知し、成果を普及させるため、各教科・科目ごとの実践の成果を、学校ホームページで公開したり、毎年実施している卒業探究発表会や探究活動発表会を広く公開したりすることとしている。また、学力向上に資する研究協議会を年1回開催し、各教科・科目等において自主的・自立的に課題解決に向かう態度や地域社会に貢献する態度の育成に資する取組について、県内外で広く共有できるようにする。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	おかやまけんりつわけしずたにこうとうがっこう				②所在都道府県	岡山県
2019～2021	①学校名	岡山県立和気閑谷高等学校				県	
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	設置学科：普通科、キャリア探求科	
	普通科	80	73	77		230	生徒数：345名
キャリア探求科	40	37	38		115	(普通科230名、キャリア探求科115名)	
⑥研究開発構想名	「恕」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成						
⑦研究開発の概要	本構想は、本校が規定する「地域と協働する探究人」育成を目的とし、卒業までに身につけさせたい資質・能力「7つのチカラ」の向上を目標とする。そのために、(ア)各教科・科目における地域協働カリキュラム、(イ)地域協働デュアルシステムカリキュラム、(ウ)総合的な探究の時間における地域協働カリキュラム、(エ)各教科・科目等と連動する課外活動、(オ)(ア)～(エ)を支援する体制の構築の5点について研究開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本構想の目的は、「地域と協働する探究人」を包括的に育成することである。「地域と協働する探究人」とは、自己の在り方・生き方を探求し自己成長と地域貢献を融合した人生をデザインし、SDGsを意識しつつ、身の周りや地域課題を主体的に探究し、地域に貢献できる人物である。この目的のため、各教科・科目、総合的な探究の時間、課外活動の3領域を通して、「7つのチカラ」（自分を理解する力、職業とつなぐ力、考える力、行動する力、コミュニケーション力、チームワーク力、自立する力）の育成を目標とする。将来にわたり探究心を持ち、身の周りや地域の課題の解決策を提案する等、地域に貢献する人材を持続的に送り出すことが期待できる。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>(ア) 各教科・科目における地域との協働によるカリキュラム</p> <p>生徒の学習意欲を引き出し、主体的な学びの実現を目指したパフォーマンス課題とルーブリック評価を実践し、単元の記録を学校ホームページにアップしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【仮説】各教科の単元と「7つのチカラ」をつなげた長期ルーブリックで身につけるべき資質・能力の到達点とその評価規準を生徒と教師が共有し、教科横断的なパフォーマンス課題の設定、地元の特長的な教育資源の活用、地元企業と連携した実習や本物に触れる体験を取り入れた単元開発により主体的な学習者を育成することができる。</p> </div> <p>(イ) 地域との協働によるデュアルシステムカリキュラム</p> <p>普通科文Ⅱ系とキャリア探求科総合系の間で、学科の枠を越え相互に科目選択できるようにし、就職・公務員志望者を対象とした2年次の夏期3日間のインターンシップでは、町役場と和気商工会の協力のもと和気町内を中心に就業体験先を確保している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【仮説】2年次の夏・冬・春に各5日間の就業体験実習を行い、3年次に学校設定教科「地域協働探究」を設定するデュアルシステムカリキュラムの開発により、求められる力への理解や職業意識を深め、7つのチカラを向上させる意欲を引き出し、進路目標を自覚し、将来の職業を自らの意志と責任で選択する生徒を育成することができる。</p> </div> <p>(ウ) 総合的な探究の時間における地域との協働によるカリキュラム</p> <p>1年次では探究手法の学習および校内と和気町をつなげる探究活動、2年次ではテーマ別に和気町の課題解決に向けた探究活動、3年次では一人一人が自らの進路分野の理想への提言まとめ、という3年間のプロセス、及び1・2年次生は探究学習発表会、3年次生は卒業探究発表会で地域の方や大学関係者、企業の方を招いたポスターセッションやプレゼンテーションをするという枠組ができています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【仮説】探究学習の過程で生徒が大学関係者、地元企業・自治体の従業員・職員等から適宜直接指導を受けられる体制を構築することで、探究の専門性や新規性が高まり、探</p> </div>					

	<p>究活動の質が深まるとともに、探究活動に関わる地域関係者の変容も期待できる。</p> <p>(エ)各教科・科目等と連動する課外活動 地域の方や小中学生、留学生、国内外の高校生との交流を積極的に行っている。</p> <p>【仮説】各教科・科目での学びを生かし、総合的な探究の時間の情報収集や仮説検証の場として活用することで、生徒の視野が拡大し、地域関係者が課題を再認識できる。</p> <p>(ウ)上記(ア)～(エ)を支援する体制の構築 和気町が本校に派遣する支援職員1名が常駐し、総合的な学習の時間の企画・運営の中心として活動している。また、支援職員、町商工会、町教委、校長、教頭、主幹教諭、地域連携担当者、事務担当者による連絡会を隔週で開催し、情報共有し小中高連携を支援するとともに、学校評議員に町教委や近隣の中学校長を加えた「魅力化推進協議会」を年5回開催し、学校運営や教育課程編成などについて協議している。</p> <p>【仮説】今後、主たる「地域」を和気町から2市1町に拡充することを想定したコンソーシアム（コミュニティ・スクールへ移行予定）を作り、多様な主体と協働する教育活動を、カリキュラム開発等専門家が支援職員、教職員や生徒とともに進める体制を構築することで、本研究開発終了後も学校と地域とが持続的に関わる経験とノウハウの蓄積が期待できる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>(ア)各教科・科目 「7つのチカラ」育成の年間計画を生徒と教師が共有した上で、教科横断的パフォーマンス課題を開発・実践する。就職・公務員志望者対象に学校設定教科「地域協働研究」を新設し、自己理解と人間関係調整力を高めるとともに、社会人講師による講義や職場体験を通して職業を自らの意思と責任で選択できる資質・能力を高める。</p> <p>(イ)デュアルシステム 2年次の夏・冬・春の3期に各5日間、3年次に学校設定教科「地域協働探究」の中で2か月間毎週金曜日を2期、就業体験実習や地域貢献活動を実施し、職業選択に資する。</p> <p>(ウ)総合的な探究の時間 1年次生は前期で探究の手法を学び、後期に和気町を主題に5分野で探究学習を進める。前期は大学と連携、後期は分野ごとに大学または和気町当該課の指導を受ける。 2年次生はSDGs学習の後、コンソーシアム構成員からそれぞれの現状と課題を聞く場を持ち、和気町または各自の地元の課題あるいは現代社会の課題をテーマに探究学習を進める。テーマに応じて大学や自治体、企業の方から適宜指導を受ける。 3年次生は各自の進路分野について、コンソーシアムや連携先の関係する構成員から情報収集しながら、現状と理想の差を埋める提案を探究する。 1、2年次生は探究学習発表会、3年次生は卒業探究発表会で、地域や大学、企業の方を招き、ポスターセッションやプレゼンテーションを行う。</p> <p>(エ)課外活動 「多様な主体による協働会議」に探究グループの代表者が参加し自分たちの探究活動について地域の方から直接意見を求め聞いたり、「放課後学習支援」で小中学生を直接指導したりするなど、生徒が地域内の多様な方と直接対話できる場を設定する。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制 企画委員会がコンソーシアムの3部会と協働してカリキュラムの内容を立案、地域協働プロジェクト推進委員会で協議、コンソーシアムで承認する地域協働推進体制をとる。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 教育課程の特例：特になし 教育課程の特例に該当しない教育課程の変更：学校設定教科「地域協働探究」の新設</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成28年度第7回持続発展教育（ESD）大賞 文部科学大臣賞受賞 平成29年度第7回キャリア教育推進連携表彰（文部科学省・経済産業省）最優秀賞受賞</p>